

大分市の小中一貫教育

(令和8年度版)

学校や地域の実情に応じた小中一貫教育の推進



1～9年 全校清掃の様子
(賀来小中学校)



中学生が企画・運営する
体験入学で活動する小学生の様子
(野津原小学校・野津原中学校)



9年生と一緒に勉強する児童の様子
(碩田学園)

大分市教育委員会

1 大分市の小中一貫教育

ねらい

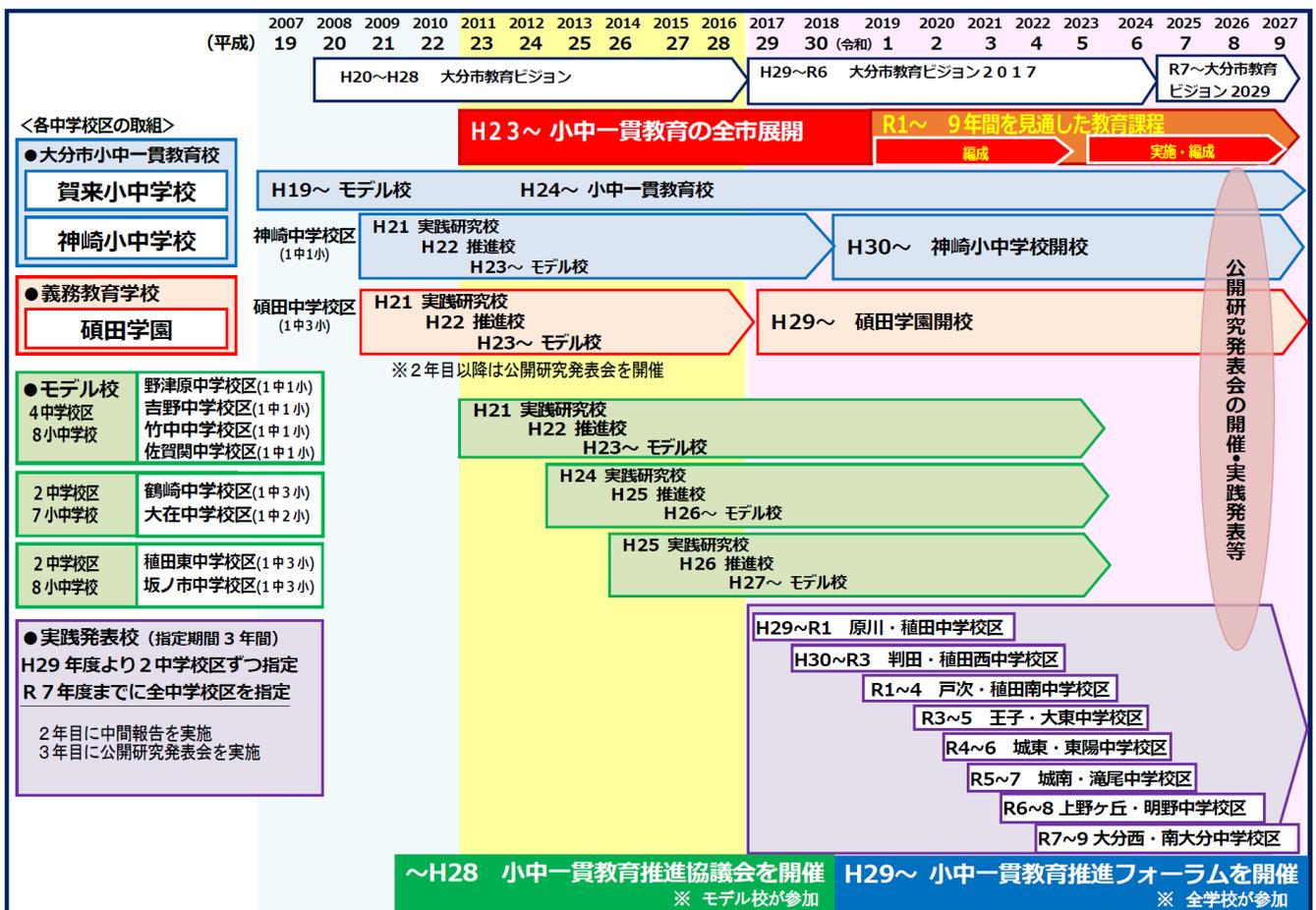
大分市では、こどもたちの心身の発達の変化や生徒指導上の諸問題、学力形成上の特質の違い等による小中の段差（いわゆる中1ギャップ）の軽減を図り、確かな学力、豊かな人間性と社会性、健やかな心身をバランスよく育成し、自ら学び、自ら考える力などの「生きる力」を育む上から、義務教育9年間を見通した系統的な教育を行う小中一貫教育を推進しています。

基本方針

- 中学校区を実施単位の基本として、市内全中学校区において、学校や地域の実情に応じた小中一貫教育を推進する。
- 各中学校区で設定している目指すこども像や教育目標等を、学校、保護者、地域で共有するとともに、目標の実現に向け、各教科等や各学年の指導の在り方を検討し、指導の改善を図る。
- 全中学校区において、公開研究発表会を実施し、学校、地域の特色を生かした系統的な教育活動の在り方などについて研究・発表することにより、その研究成果を学校間で共有し、取組の活性化を図る。

推移

平成16年度	小中一貫教育推進に係る研究に着手
平成19年度	小中一貫教育校として賀来小中学校を開校
平成21年度	吉野中学校区、竹中中学校区、佐賀関中学校区、神崎中学校区、野津原中学校区（1中1小型）及び碩田中学校区（1中複数小型）の計6中学校区を実践研究校に指定し、その後、同校区が推進校、モデル校として順次研究を進める
平成23年度	研究指定校の取組の成果や課題を踏まえ、市内全小中学校において小中一貫教育を展開
平成24年度	鶴崎中学校区、大在中学校区の2校区を大規模校における実践研究校として指定し、その後、同校区が推進校、モデル校として順次研究を進める
平成25年度	植田東中学校区、坂ノ市中学校区の2校区を大規模校における実践研究校として指定し、その後、同校区が推進校、モデル校として順次研究を進める
平成29年度	義務教育学校として碩田学園を開校 毎年度、2中学校区を実践発表校区に指定し、3か年計画で研究を進める
平成30年度	小中一貫教育校として神崎小中学校を開校
令和6年度	成果を還元する務めを果たしたため、モデル校を終了



2 取組の概要

本市では、これまでの取組を通して、児童生徒の学力の向上や自尊感情の高まりなどに加え、教職員間の協働意識の高揚や小中学校間の系統性を踏まえた授業力の向上など、多くの成果が見られています。

各学校においては、こうした取組の成果を踏まえ、今後とも、自ら学び、自ら考える力などの生きる力を育むため、9年間を見通した系統的な教育課程を編成し、5つの視点に沿って小中一貫教育の推進に努める必要があります。

視点1	目指すこども像の共有	中学校区における育成すべき資質・能力を明確にした目指すこども像や取組の重点等について、小中学校の教職員間で共有を図る
視点2	学びの連続性の確保	系統的な教育課程を基に、指導方法の工夫改善を図り、9年間の学びの連続性を確保する
視点3	児童生徒の交流	合同行事や交流活動により、児童生徒が共に活動する機会を充実する
視点4	教職員間の連携・協働	中学校区の取組の重点等に基づき、小中学校の教職員間の連携・協働を深める
視点5	家庭・地域社会への情報発信	学校ホームページや広報紙を充実させ、小中一貫教育の取組状況や成果・課題等の積極的な情報発信を行う

大分市教育ビジョン2029 指標	基準値 (R5年度)	実績値 (R7年度)	指標 (R11年度)
中学校進学(7年生進級)にあたり、不安よりも期待が大きいと感じる児童の割合	63.6%	71.1%	80%

各中学校区の取組

■小中一貫教育全体計画及び年間指導計画等に基づく取組の充実を図る

- ・中学校区における育成すべき資質・能力に基づく取組の検証を通じた指導計画等の改善
- ・全校又は特定の学年・集団での児童生徒の合同行事、交流活動(オンライン交流を含む)の実施
- ・中学校区作成の9年間を見通した学習・生活のきまりの活用、改善等

■学校や地域の実情に応じた取組の充実を図り、研究成果等の還元を努める

- ・小中合同研修会等を通じた計画的・継続的な研究の推進
- ・公開研究発表会、中間報告等を通じた成果の還元等

【実践発表校】

上野ヶ丘・明野中学校区(3年次) 公開研究発表会
大分西・南大分中学校区(2年次) 小中一貫教育推進フォーラム中間報告会

大分市小中一貫教育校 賀来小中学校 神崎小中学校 の取組

■大分市小中一貫教育校ならではの特色ある取組の充実を図り、研究成果等の還元を努める

- ・教職員全員に兼務発令
- ・前期(1~4年)、中期(5~7年)、後期(8・9年)の3期に応じた教育活動
- ・第1学年から英語教育を実施
- ・中期での一部教科担任制の実施
- ・キャリア教育の推進
- ・コミュニティ・スクールの活用
- ・9年間を見通した学習・生活のきまりの活用や各期別集会の実施等

義務教育学校 碩田学園の取組

■義務教育学校として、9年間の連続性を重視した特色ある教育活動の展開に努める

- ・日常的な異学年交流等による心育での充実
- ・コミュニケーション能力を育む教育の充実
- ・前期(1~4年)、中期(5~7年)、後期(8・9年)の3期に応じた教育活動
- ・第1学年から英語教育を実施
- ・中期での一部教科担任制の実施
- ・コミュニティ・スクールの活用
- ・9年間を見通した学習・生活のきまりの活用や各期別集会の実施等

3 本年度の重点

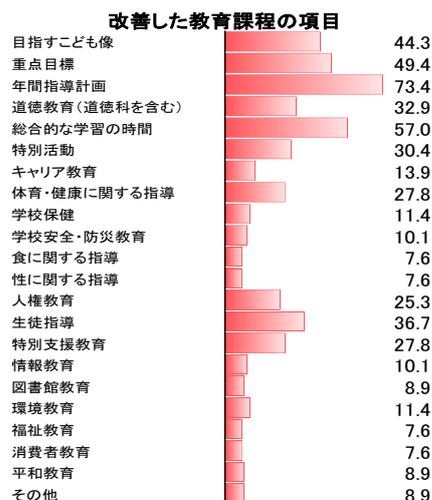
重点1

学校や地域の特色を生かし、9年間を見通した系統的な教育課程の実施、改善

各学校では、9年間を見通した系統的な教育課程の編成を終え、全面実施しておりますが、中学校区における育成すべき資質・能力を踏まえて、適宜、改善に努めていくことが大切です。

<教育課程の評価・改善に向けた取組例>

- ・「総合的な学習の時間」において、中学校区における育成すべき資質・能力を踏まえた探究のプロセスを設定する
- ・小中合同授業研究会等で校区の道德教育の重点目標に沿った内容項目の授業を見合う
- ・中学校区で作成した「学びの系統表」等を次年度の教育課程に掲載することを検討する 等



重点2

児童生徒の心身の発達の変化や生徒指導上の諸課題、学力形成上の特質の違い等による小中の段差(いわゆる中1ギャップ)の軽減を図るため、中学校区における教職員間の情報共有等の取組の充実

各学校では、小中学校間の円滑な接続を図れるよう、不登校児童生徒数等の現状から中学校区の課題を分析し、教職員間の綿密な情報の共有(意識調査結果や引継ぎシート等の活用)や児童生徒間の交流(部活動の体験会や合唱コンクールの参観等)を通して、小中の段差(いわゆる中1ギャップ)の軽減に重点的に取り組むことが大切です。

「スロースタートプログラム」の実施例

【教育課程】	・ 学期始めの授業時数の軽減 ・ 放課後の補充授業の実施
【学校行事】	・ 行事の取組や準備期間の短縮 ・ 長期休業後の課題テストの廃止
【アセスメント】	・ 小中間での情報共有と連携強化 ・ 関係機関との連携強化
【家庭との連携】	・ 年度始めの家庭訪問の実施 ・ 通信等による積極的な情報発信
【部活動】	・ 部活動入部時期の変更 ・ 中学1年生の練習時間の短縮
【その他】	・ いじめアンケート実施頻度の増加 ・ 人間関係づくりプログラムの定期実施

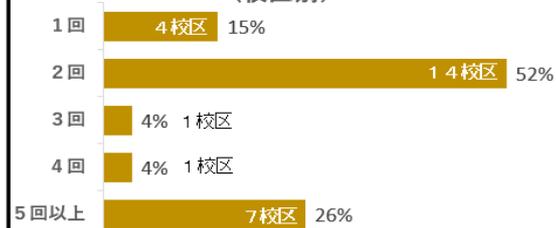
重点3

小中合同授業研究会等を通じた組織的な授業改善

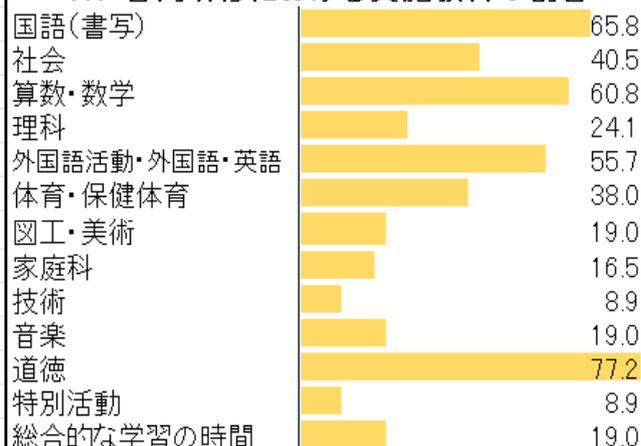
各中学校区で育成すべき資質・能力は、特に 探究的な学習において、よりよい課題の解決に取り組む中で、相互に関わり合いながら高められていくものとして捉えておくことが必要です。

また、今後も引き続き、小中合同授業研究会等を通して、授業展開や板書構成、ICTや思考ツールの活用等、児童生徒の発達の段階に応じた組織的な授業改善に努めていくことが大切です。

R7 小中合同研修会の実施回数の割合 (校区別)



R7 合同研修における実施教科の割合



4 小中一貫教育の推進に向けての5つの視点

各中学校区においては、学校や地域の実情に応じた様々な取組が行われています。
この5つの視点に沿って、小中学校の系統性・連続性のある教育課程の実施・改善に努めることが求められます。

- | | |
|--------|---|
| 取組例 | ○中学校区の児童生徒の状況や課題について、小中学校間で共通理解の下、育成すべき資質・能力を明確にした目指すことも像を設定する。
○小中学校間で育成すべき資質・能力に基づき、取組の重点等について協議を重ねるなど、共通認識を醸成する。 |
| 今後に向けて | ○目指すことも像や教育目標等について、学校ホームページ等を通して家庭や地域と共有する。
★児童生徒の実態や経年変化を客観的に把握し、状況に応じて目指すことも像を見直すことが必要です。
★育成すべき資質・能力をなるべく具体的に設定した上で、目標の達成に向けて、9年間の系統性を重視した教育課程を編成・実施していく必要があります。 |

小中学校で目指すことも像を共有し、子どもたちの「生きる力」の育成を図る

視点1

目指す
ことも像の
共有

- | | |
|--------|--|
| 取組例 | ○育成を目指す資質・能力を踏まえた学習指導の系統表や単元配列表を作成・活用する。
○授業展開や板書構成、ICTや思考ツールの活用等の授業づくりについて、小・小中・小中で統一したり系統性をもたせたりする。
○中学校区作成の9年間を見通した学習・生活のきまりを活用・改善する。 |
| 今後に向けて | ★各中学校区で学力調査の結果について、分析シートを基に協議し、課題となる教科を小中合同授業研究会で取り組む必要があります。 |

教育課程の編成や指導方法の工夫改善を図り、9年間の学びの連続性を高める

視点2

学びの
連続性
の確保

- | | |
|--------|---|
| 取組例 | ○児童会・生徒会活動の様子を動画で見せ合ったり、児童会・生徒会新聞等を校内に掲示したりする。
○学校間で学習成果や作品の回覧・交流を行ったり、文化発表会を見学したりする。
○職場体験学習や読み聞かせ、体験入学等において、母校の小学生と交流する。
○環境保全や美化活動等の地域行事に小中合同で参加する。 |
| 今後に向けて | ★児童生徒自身が、交流の目的やよさを実感し、学校や地域の一員としての自覚をもつことができるよう、継続的に指導することが大切です。 |

合同行事や交流行事により児童生徒がともに活動する機会を充実する

視点3

児童生徒の
交流

- | | |
|--------|--|
| 取組例 | ○小中合同研修会を通した重点目標や指導計画等の作成及び取組の評価・改善
○小中合同授業研究会や互見授業を通した授業改善
○合同学力向上会議・学力分析会議等の開催及び共通理解 |
| 今後に向けて | ★理念や取組が形骸化しないよう、新年度への引継ぎを丁寧に行っておくことが必要です。
★校区の状況に応じて、組織や体制の見直しを柔軟に行っていくことも考えられます。 |

校区の重点目標等に基づき、小中学校の教職員間の連携・協働を深める

視点4

教職員間の
連携・協働

- | | |
|--------|--|
| 取組例 | ○情報発信の場…学校ホームページ、小中一貫教育だより、学校だより、懇談会、学校運営協議会 等
○発信する内容の充実…全体計画や年間指導計画、重点目標、小中合同研修会や児童生徒交流等の取組の様子、児童生徒の感想、中学校区で作成している各種手引き(学習・生活のきまり、家庭学習の手引き、情報モラルのマナー等)、各種アンケート調査の結果 等 |
| 今後に向けて | ★学校ホームページや広報誌の充実に取り組みしていくことが大切です。
★学校評価の項目に取り入れるなど、小中一貫教育について、地域住民等の理解や協力が促進されるよう努める必要があります。 |

取組状況や成果・課題について、家庭や地域社会への積極的な情報発信に努める

視点5

家庭・地域
社会への
情報発信

5 小中一貫教育に係る意識調査の結果

意識調査の結果

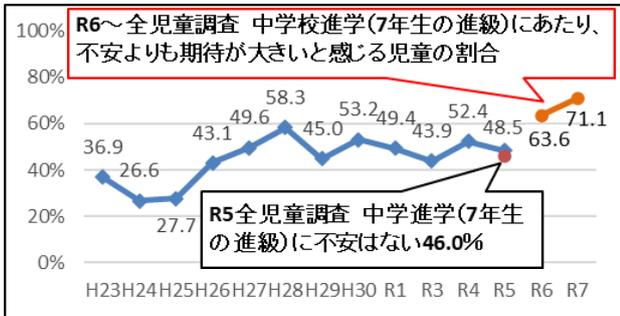
これまでの取組を通して、中学校進学への不安感の軽減や児童生徒の豊かな心の育成への効果、教職員の協働意識の高まりや9年間の系統性を踏まえた授業力の向上など、一定の成果が見られています。

※各項目について、肯定的な回答が得られた割合を算出しています。

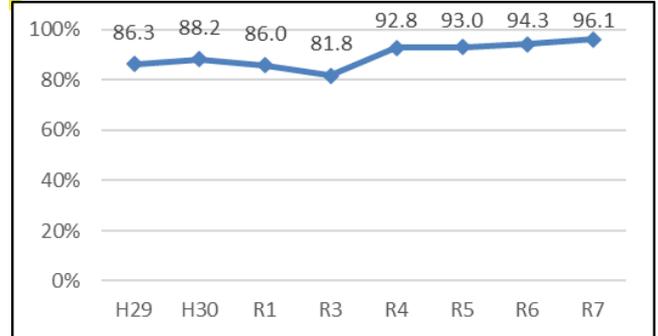
※令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により調査を実施していません。

R6～ 中学校進学（7年生の進級）にあたり、不安よりも期待が大きい

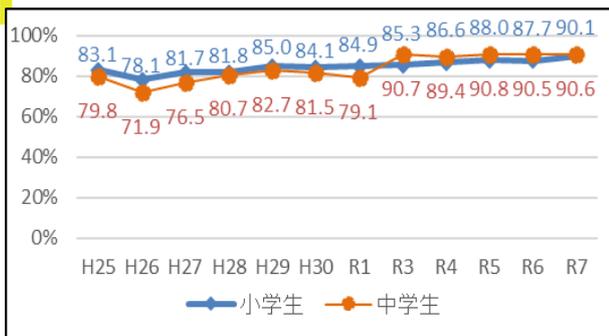
H23～R5 中学進学に不安はない（小学6年生）



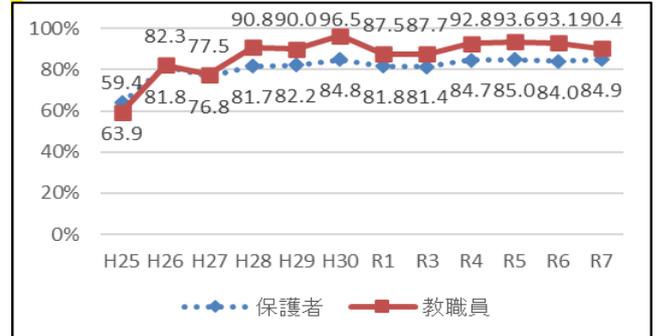
「学習・生活のきまり」を守っている（児童生徒）



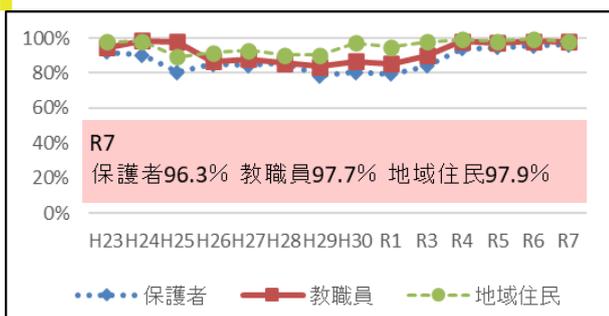
中学生のようにになりたい（小学生）
先輩としての自覚がある（中学生）



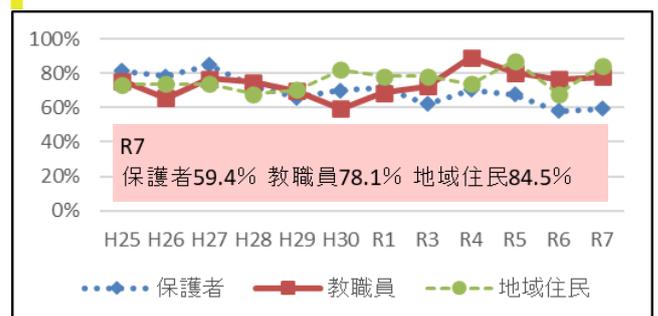
小中一貫教育の取組は中学進学への不安感の軽減に効果がある（教職員・保護者）



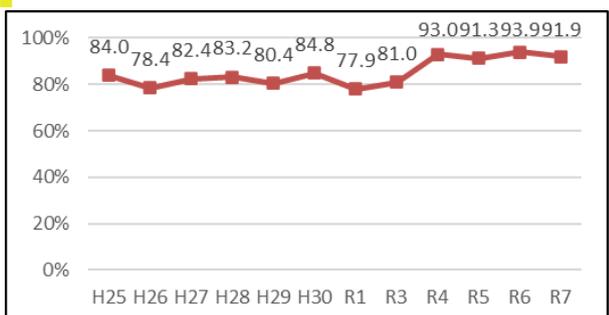
合同行事等は豊かな心の育成に効果がある（保護者・教職員・地域住民）



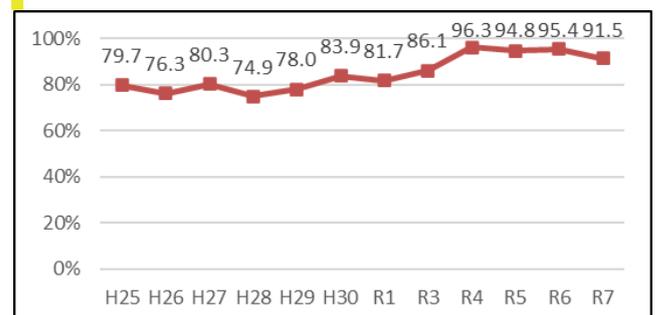
学校は家庭や地域に積極的に情報発信している（保護者・教職員・地域住民）



小中の系統性を踏まえて授業をしている（教職員）



目指す子ども像を教職員間で共有し、主体的に小中一貫教育を行っている（教職員）



6 小中一貫教育推進フォーラムについて

本市の小中一貫教育における成果の還元や今後の小中一貫教育の在り方について理解を深めることを目的として、平成29年度から「小中一貫教育推進フォーラム」を開催し、専門家による講義や実践発表校による研究報告、グループ別協議等を行っています。令和7年度の開催状況は以下の通りです。

令和7年度の実施状況	
日時	令和 8年 2月13日(金) 13:30~16:30
内容	実践発表 1 上野ヶ丘中学校区 2 明野中学校区
	講義・演習「小中一貫教育推進に向けた基本的な考え方 『目指すこども像』を中心に据えた取組について」 講師 大分大学教育学部 教授 伊藤 安浩 氏
	グループ別協議・情報交換 「中学校区における『目指すこども像』に基づいた本年度の取組 の成果や課題について」

令和7年度小中一貫教育推進フォーラム リフレクションシートより(抜粋)

- ・小中一貫教育の推進において「めざす子ども像」を活動の核に据える重要性を感じました。小中一貫教育推進の背景には、小1プロブレムや中1ギャップの解消があり、幼少期から生涯を見通した「縦のカリキュラムマネジメント」と校種間の密接な連携が不可欠だと感じました。
- ・中学校区で育成すべき資質・能力について、本校区の全職員で共有するとともにその実現のために、探究的な学習の課題として小・中学校でどのようなものができるかを全職員で考えなければならない。

7 本年度の予定

令和8年度小中一貫教育公開研究発表会

研究指定（年次）	校区名	開催予定日
実践発表校（3年次）	明野中学校区	令和8年 9月25日(金)
	上野ヶ丘中学校区	令和8年 10月14日(水)

令和8年度小中一貫教育推進フォーラム（中間報告）

研究指定（年次）	校区名	開催予定日
実践発表校（2年次）	大分西中学校区	令和9年 2月15日(月)
	南大分中学校区	

8 お願い

小中一貫教育の取組状況、成果・課題の検証結果及び今後の取組について、家庭や地域への積極的な情報発信をお願いします。

ホームページへの掲載必須事項

小中一貫教育の全体計画、年間指導計画、本年度の重点目標、校区の小中学校へのリンク